

『インド学チベット学研究』《第26号投稿規定》

- ・原稿掲載料について
- ・データ加工料について
- ・データ入力規定について
  - ①テフ形式の場合
  - ②MS-Word形式(1)の場合
  - ③MS-Word形式(2)の場合

・原稿掲載料について

当誌の誌面で30ページまでは10,000円といたします。以下3ページごとに1,000円追加料金が必要となります。例：31-33ページで原稿が収まった場合、11,000円となる。

また写真（白黒・カラー）を使用する場合は実費をご負担願います。詳しくは事前に問い合わせてください。

雑誌の編集過程での執筆者と編集者のやり取りは原則としてe-mailを使用いたします。やむを得ず郵送費などが発生した場合、執筆者に実費をご負担いただきます。

・データ加工料について

提出原稿の形式に応じてデータ加工料を徴収いたします。

原則として①当会の規定に基づいたテフ形式、②当会が規定する入力方法に基づいたMS-Word方式で提出してください。ただし校訂テキスト類のように下線、上付・下付文字、特殊記号などが頻出するものは②の形式での入稿をお断りいたします。これについては①のテフ形式に直して提出するか、③MS-Word形式(2)で入稿してください。投稿する論文が③で提出する原稿に該当するかどうか疑問の場合は事前に問い合わせをお願いします。

加工料：

- ①テフ形式 徴収しません
- ②の形式 10,000円
- ③の形式 5,000円

データ加工料は論文1本あたりです。代金は原稿校了後に当会が指定する方法でお支払いいただきます。

・データ入力規定について

①テフの場合

テフ形式でデータを投稿する場合は、以下の注意点を守ってください。不明な点があれば事前に問い合わせるかMS-Word形式による投稿をご検討ください。

当誌の版下はupLaTeXでタイプセットいたします。ターミナル上からupLaTeXコマンドを使用してタイプセット可能なものを提出してください。機種依存文字は使用できません。外字等は、OTFパッケージを使用してください。TeXworksのような「統合環境」で作成したファイルも、ターミナルからのコマンドでタイプセットできることを事前に確認したあとで投稿してください。

マクロ類を使用する場合は事前に問い合わせてください。対応できない場合もあります。なるべくノーマルな環境でタイプセットできる原稿の提出を推奨します。

提出されたファイルは、当誌のスタイルファイルでタイプセットいたします。レイアウトについては執筆者の意向も配慮しますが、最終的には編集者にご一任をお願いします。スタイルファイルはjsarticleを当誌向けに一部改めたものを使用する予定です。また当誌のスタイルファイルは公開いたしません。

データは完成原稿で提出してください。編集の過程で版下が正しくレイアウトされているのかを中心としたチェックを行います。その際、中身の書き直しは原則として認めませんのでご注意ください。校了後の念校なども基本的に行いません。大量に書き直しが発生したものは掲載をお断りする場合があります。

## ②MS-Word形式(1)

下記のデータ入力要項に従ってMS-Wordで読み込み可能なファイルを提出してください。当会でMS-Word形式をテフ形式に変換し、それについてレイアウトなどの最低限のチェックを行います。提出は**完成原稿**とし、初校、再校というようないわゆる「校正」は行いません。変更は最低限の誤字・脱字などに限定します。版下（ゲラ）をみながらの原稿の書き直しなどは固くお断りいたします。大量に書き直しが発生したものは掲載をお断りする場合があります。校了後の念校もいたしません。

### データ入力要項

- (1) 「イタリック体」部分はMS-Wordの文字修飾機能を使用して指定する。イタリック文字フォントを使用してもかまわないが、その部分も上記の方法で斜体指定してください
- (2) 「ボールド体」部分はMS-Wordの文字修飾機能を使用して指定する。ボールド体文字フォントを使用してもかまわないが、その部分も上記の方法でボールド体指定してください
- (3) 「脚注」はMS-Wordの脚注機能を使用する。
- (4) 「サンスクリット語などにおけるアクセント付の文字」はUnicodeフォントを使用してください。独自のフォント（TSフォントなど）の使用はご遠慮ください。
- (5) 以下の特殊記号(半角)は使用しない。全角文字であれば使用してもかまわない。  
\$ & % # { } < > \_ \
- (6) 英数字は半角のみ、カタカナは全角のみを使用する。

(7) 引用箇所の子下げなどもMS-Wordの機能を使用してかまわないが、すべての書式を雑誌の版下に反映させることはできない場合もありますのであらかじめご了承ください。**JIS第一、第二水準に含まれない漢字（いわゆる外字）**については、「■」とその文字のUnicode番号(4桁)を付記してください。「犍」や「埴」などは「外字」にあたります。

「犍」は「■728d」、「埴」は「■57f5」という表記をおねがいます。

犍度部 → ■728d度部      金剛薩埴 → 金剛薩■57f5

詳しくはウェブなどで「第二水準」などと検索してみてください。またUnicode番号については、「鍵 unicode」などとネット上で検索すれば判明すると思われます。

(8)機種依存のある記号類などは使用しない

「ローマ数字（記号のもの）」、「ダブルクォーテーション」、「ダッシュ」などが機種依存文字の典型です。（①、②、I、II、ミ、mm、「半角のカギカッコ」や「セクション記号」などなど）

※特にデータに「ダブルクォーテーション」が使用されていることにより編集作業が滞ることが頻出しております。ご注意をお願いします。ダブルクォーテーションを使用したい場合は、「`」,「'」などとシングルの二重打ちしてください。また、「ダッシュ」を使用する場合は、ハイフンの2重打ち、3重打ちで表示してください。

(9) 図表を使用する場合は、PDFファイルで作成したものを提出してください。作成にあたってはB5版雑誌所載であることを考慮ねがいます。大きすぎるものは掲載できないか縮小などの加工を行う場合もあります。

②MS-Word形式(2)

下記に従いMS-Wordで読み込み可能なファイルを提出してください。完成原稿で提出していただきますので校正は行いません。提出いただいたワープロ原稿を本誌の書式に合わせてPDF化しそれについてレイアウトの確認作業を行っていただきます。編集過程での文章の書き直しはお断りいたします。

提出の段階の要件

- ・体裁はB5縦、横組みとする。
- ・マージン（余白）は、上36mm 下30mm 左右が25ミリ。
- ・提出原稿の和文フォントは「ヒラギノ」をお願いします。「ヒラギノ」の使用が難しい場合は、標準的フォントを統一して使用してください。同じく欧文フォントはTimes New Romanの使用をお願いします。疑問がある場合は、事前に問い合わせてください。
- ・本文のフォントサイズは9.5ポイント、脚注・末注類は8ポイントとする。
- ・1ページの行数と一行の文字数  
（本文）ページ設定（和文）で 1ページの行数35行、文字数40・字送り9.35pt  
（脚注類）本文の80%程度に設定する
- ・ノズル（頁番号、ヘッダ・フッタ類）はつけないでください
- ・半角文字はunicodeフォントを使用してください
- ・使用フォントの最終的な選別についてはご一任ねがいます
- ・論文の最初に「タイトル」と「著者名」を、論文の末尾に3-5個程度の「キーワード」を記してください。書式などは当方で編集します。
- ・論文全体のレイアウトについては、執筆者の意向を尊重しますが、最終的にはご一任をお願いします。

以上